

家系研究協議会 (家研協)



第 94 号

2026年 令和8歳丙午 如月 (2月4日)

五年間で生を燃焼させた男 楠木正成

「在命無用の最善に命を落とすべし。」建武三年(1336)楠木正成はこう言って湊川に散っていった。時代変革の中心舞台に一躍登場して、わずか五年。この間に正成は人生のすべてを燃え尽きた。

楠木正成の手勢は、名誉など何の関係もなく、相手が強ければ逃げる。弱ければ攻める。夜襲をかける。石を投げ、大木を落とす。油を注ぎ、火を放つ。まさに悪党の得意とする。なりふりかまわぬゲリラ戦法。湊川で壮絶な最期を遂げたのは建武三年(1336)五月二十五日であった。・・・存命無益なり。

湊川神社にはよく行った。ここは楠木正成が足利尊氏の大軍と戦い、敗れて自害して果てたと言われるところ。挙兵して五年余り、正成はこの地で40余年の生涯を閉じた。この地に参拝した人物に、シーボルト、頼山陽、吉田松陰、勝海舟、坂本龍馬、錚々たる面々の名がつけられている。幕末には勤皇の志士の精神的よりどころになっていった。明治五年に神社の認可をうけ、今日でも五月二十五日の命日には、有名人の参拝が続いており、正成をしのんで楠公祭が催されている。

楠木正成の評判がもっとも上がったのは、幕末の尊王攘夷の時代と明治時代だった。「大忠臣・大楠公」として正成のイメージは天皇の神格化とともに国民に浸透していった。「青葉しげる」の唱歌は今でも私は時々口ずさんでいる。正成は散所の長者であり、悪党の親玉でもある。正成は下層農民や山伏、遊行の芸人、商人と人脈を持っており、彼らを通じて独自の情報網を持っていた。正成は普通の武士とは違って商人的武士だった。体制から外れたアウトサイダーである。

「青葉茂れる桜井の里のわたりの夕まぐれ」は国民の間でよく知られている。四番は「いましをここより帰さんは、わが私の為ならず。己れ討死為さんには、世は尊氏のままならん。早く生い立ち大君に仕えまつれよ国の為」正成が正行に伝えようとした心がここに見事に歌いこまれている。

古来名将は備えを十分にした後、敵を倒す好機の到来を待った。楠木正成もまた、その徹底した「待ち」の戦略で時代変革の原動力の役割を果たした。

楠木正成の悪党ぶりは「天竜寺文書」に、京都臨川寺領の和泉若松庄に押し入り「悪党楠兵衛尉」と記録されていることでも知られる。

正成の兵法の特徴は、明らかに「待ち」の戦略である。正成が「待ち」の戦法を信奉するに至ったのは大江時親に学んだ「孫子」の兵法の感化による。

正成の「待ち」の戦略は決起の「時」を得たのである。

(本会会長 安居隆行)

家系研究協議会 ホームページ アドレス

<https://www.kakenkyou.org/>

~~~~~  
 発行者 家系研究協議会

編集・発行者

事務局長 馬原 浩一

Ⓔ=====Ⓩ

// 通 刊 //

電話・FAX

事務局 馬原 浩一

// 第122号 //

会計責任者

経理部長 須貝 隆弘

// 45年-3 //

年会費

5,000 円

// 昭和55年創立 //

郵便振替番号 00980-0-161483 名 義 家系研究協議会

Ⓔ=====Ⓩ

ゆうちょ銀行 店名 四二八 店 (ヨンニハチ店) 口座番号 0256909

(記号 14260 番号 2569091)

~~~~~  
 印刷・コピー 家系研究協議会